

沖永荘一杯 第37回東京都少年少女学年別柔道選手権大会 要項

1. 目的 試合を通して柔道の基本技能、礼法を正しく習得させると共に心身を鍛錬し将来を担う少年少女の育成と、相互親睦を図ることを目的とする。
2. 主催 公益財団法人 東京都柔道連盟
3. 後援 公益財団法人 講道館・東京都教育委員会・帝京大学・公益財団法人東京都スポーツ協会（いずれも申請中）
4. 日時 令和8年2月15日（日） 開会10:00（開場8:00、9:15 各試合場にて計量及び柔道衣コントロール）
5. 会場 東京武道館 大武道場 〒120-0005 足立区綾瀬3-20-1 TEL 03(5697)2111
6. 参加資格 (1) 選手は東京都柔道連盟傘下の「道場」・「クラブ」等に所属し、2025年度 of 全柔連登録が有効である
小学4年生・5年生・6年生とする。
(2) 事故防止のため、修業期間6ヶ月以上の者とする。
(3) 体重区分は、負傷事故防止のため、少年は軽量・中量・重量・超重量の4階級、少女は軽量・中量・重量の3階級とする。振分け方法は、全選手を申込みの体重順に並べ、少年はおおよそ4等分に、少女はおおよそ3等分にして各階級とする。
7. 試合方法 男女別、学年別、体重別のトーナメント戦による。
8. 審判規定 (1) 国際柔道連盟試合審判規定、国内における「少年大会特別規定」、および本大会申合せ事項で行う。
(2) 試合時間は1回戦～準決勝まで2分間とし、決勝戦は3分とする
(3) 判定の基準は「有効」「僅差」とし、得点差が無く、かつ「指導」差が1以内の場合
は旗判定で勝敗を決する。※「僅差」とは「指導」差が2をいう。
9. 計量 (1) 開会式前の待機時間に各試合場で選手全員の計量を行う。
(2) 計量は、柔道衣の上下（女子はインナーも）を着用して行う。
計量結果が「申告体重+3kg」を超えている選手は失格とする。
※計量結果＝測定体重の少数点以下を四捨五入した体重（整数値） 33.4kg⇒33kg、33.5kg⇒34kg
例：申告30kg+3kg ⇒ ○計量33.4kg（出場可） ✕計量33.5kg（失格）
※+3kgの猶予を持たせているので無理な減量は行わないこと。
10. 表彰 各学年少年（4階級）・少女（3階級）とも、優勝・準優勝・3位（2名）・敢闘賞（4名）を表彰する。
表彰は、各階級の試合が終了次第、順次行う。優勝者には沖永荘一杯を授与する。
ただし、出場選手数により、表彰人数を変えることがある。
また、小学4・5年生のベスト4および小学6年生のベスト8の入賞者は都柔連強化指定選手の候補となるが、**2026年度** of 全柔連登録を東京都以外で行う場合は、都柔連強化指定選手からは外れる。

11. 参加申込 (1) 申込締切 令和8年1月18日(日) 23:59

(2) ①申込方法

- ・全柔連登録システムより参加申込みを行う。

(手順は同システム内の「大会申込」概要を参照のこと)

- ・所属チームの登録責任者が取りまとめて申し込むこと(個人での申し込みは不可)。
- ・申込みが承認された後、「支払い」より請求書を発行し参加費を納付することで申込手続きは完了する。

※体重は、柔道衣の上下(女子はインナーも)を着用して計測し、小数点以下を四捨五入した整数を申告
なお、組合せ発表後に性別・学年・体重の入力間違いが判明し、それにより階級が変更になる場合には「失格」となるので十分注意のこと。

②監督：1名のみとし、エントリー必須

コーチ：2名までエントリー可

※監督は、「全柔連公認指導者資格C指導員以上」が有効な者とする。

監督の指導者資格が有効でない申込みが判明した場合、そのチームは出場を認めない。

(3) 参加費 1人 1,000円(傷害保険加入費用含む) 別途、手数料が必要。

※参加費はいかなる場合も返金しない。

(4) 欠場 欠場する場合は、2月6日(金)までに下記までメールで報告のこと。

それ以降は、大会当日に「欠場者受付」に申し出ること。

問合せ先：(公財)東京都柔道連盟 事務局 (営業時間内のみ受付)

TEL 03-3818-5639 / 03-3818-4246 メール moshikomi@tojuren.or.jp

12. 組み合わせ 令和8年1月末頃に連盟ホームページに掲載

13. 保 険

(1) 主催者が、参加者全員に対して傷害保険の加入手続きを行う。

(2) 主催者は、大会中の不慮の負傷・疾病に応急処置を施すとともに傷害保険の範囲内で責任を負うものとするが、参加チームでも別途傷害保険等に加入するなどして、不測の事故に備えておくこと

(3) 出場者は、「マイナ保険証」または「健康保険資格確認書の資格情報」の写真またはコピーを持参すること。

14. そ の 他

(1) 監督・コーチの服装

監督・コーチとして帯同する者は、審判員に準じた服装とする。

*男性：スーツ・ネクタイ着用(審判員用ネクタイは不可) 女性：スーツ着用

(2) 監督の行為・言動

①試合が止まっている間(「待て」から「始め」)のみ、選手に対して指示を与えることができる

②以下の行為を禁止する

- ・試合が進行している最中に指示を出すことや試合中に立ち上がること
- ・対戦相手や所属の選手を侮辱する言動

(3) 柔道衣

今大会では、柔道衣の折込みは5cmかつ一折りまで可とする。

また、前合わせについては十分な重なりがあること。

認証柔道衣の使用は義務付けない。ただし、製造者マークについては全柔連の規定を遵守のこと

(4) ゼッケン

- ①参加選手は、着用する柔道衣に規定の大きさのゼッケンを正しく縫い付けること。
- ②所属名は『申込み団体名』（省略は可）とする。
- ③ゼッケンを付けていない選手は、失格とする。
- ④ゼッケンの仕様と縫い付け方は、以下を目安とする。
 - a) サイズ：横30cm～35cm×縦25cm～30cm
 - b) 布地：白地（晒・太綾）
 - c) 書体：太いゴシック体又は明朝体の横書き（男子～黒色、女子～濃赤色）
 - d) 苗字（姓）は上側2/3、所属名は下側1/3に配置
 - e) 縫い付けの位置は、後ろ襟から5cm～10cm下部とし、周囲と対角線に強い糸で縫い付け

図1 ゼッケンの縫付方

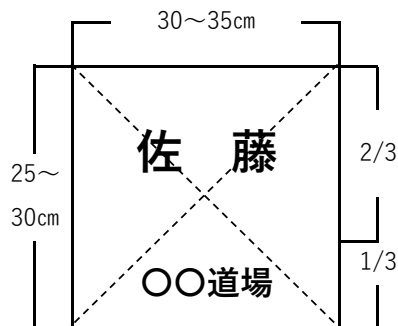
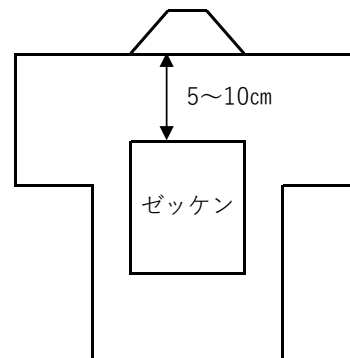


図2 ゼッケンの縫付位置



(5) 髪飾り

怪我防止のため、髪飾りの使用は禁止。固い材質や金属が使われていないヘアゴムは問題ない。

(6) 脳震盪

- ① 大会前1か月以内に脳震盪を受傷した者は脳神経外科の治療を受け、出場の許可を得ること。
- ② 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。
直ちに専門医（脳神経外科）の精査を受けること。
- ③ 練習の再開に関しては、専門医の診断を受け許可を得ること。
- ④ 当該選手の指導者は大会事務局および全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。

(7) 皮膚真菌症（トンスランス感染症）

発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において適切な治療を行うこと。もし、選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は大会への出場を認めない場合もある。

(8) 個人情報・肖像権の取り扱い

下記について、申込書の提出をもって了承されたものとし取扱う。

参加申込書に記載された個人情報・競技結果・大会中に撮影された写真または動画等の映像が、大会プログラム・競技会場内外の掲示板等・都柔連ホームページ・都柔連Facebookに掲載される場合がある。また、その他報道機関等により新聞、雑誌、テレビ及び関連ホームページ等にて公開される場合がある。

大会時に撮影する映像を、審判員および指導者の技能向上のための研修会資料として使用する場合がある。